

志野医師からひと言：遺伝子組み換え食品

ある有用な性質を持たせるために、他の生物の遺伝子を組み込んだ作物やそれを加工した食品を、遺伝子組み換え食品と呼びます。例えば害虫抵抗性のトウモロコシや、除草剤に強いダイズなどがそれにあたります。将来、栽培に適さない乾燥地で育つ作物や、特定の栄養価の高い作物などの開発にも期待されています。

日本では、遺伝子組み換え作物の商業的栽培は行われていません。一方で、輸入に大きく依存している作物、すなわちトウモロコシ、ナタネ、ワタ、ダイズなどに遺伝子組み換え比率が高いとされています。主に食用油や加工食品、家畜の飼料として広く流通し、経済的貢献度も高いようです。

アレルギーの心配や長期間摂取した場合の安全性など懸念もあることから、国の安全性審査や義務表示制度がとられています。メリット、デメリットを理解してつき合っていきたいものです。

(栄養に関してのお問い合わせは、栄養科又は外科外来にご連絡ください。)

